

## 2017年度春学期・第1クォーター・第2クォーターの授業評価を終えて

心理社会学部長 伊藤直文

2017年度春学期・第1クォーター・第2クォーターの学期末に学生による授業評価アンケートの集計、分析結果を報告いたします。

授業評価の実施にあたり、ご協力いただきました先生方にこころより御礼申し上げます。

授業アンケートの回収率は、年々上昇し、今期も2014年、15年、16年と同じく96.3%の過去最高率を維持しており、ようやく定着してきたものと考えられます。授業の形態などにより、実施困難なものもあるかと思いますが、100%実施に近づけるようにお願い申し上げます。

さて、今期授業アンケート結果の概要と特徴は以下の通りです。

1 授業アンケート項目のうちQ2～Q9の8項目で、昨年同期に比較して統計的に有意の上昇が見られた点は大変喜ばしい結果です。周知のようにQ1～6は教員のとりくみ、Q7～9は学生のとりくみにあたりますが、その両方で改善傾向が見られています。

これも先生方の地道な努力の成果であると御礼申し上げます。

ただし、この点を特に改善に著しかったQ3「教員のシラバス対応」Q7「授業に臨む姿勢」Q8「質問・調査努力」Q9「目標達成」の項目に絞って、科目種別、学科別に見ますと、これらの上昇に大きく貢献しているのが、I類の学びの技法、仏教学科専門科目及び地域創生学科専門科目であることが見て取れます。他の学科科目区分を見ると向上傾向が見られるところが多い一方で、必ずしもそうでないところもあることには注意しておくべきでしょう。

2 同時に、それぞれ向上しているとはいえ、「教員のとりくみ」に比べて「学生のとりくみ」の評点が相対的に低いことは変わりません。特にQ8「質問・調査努力」Q9「目標達成」のは、学生の主体的授業参加と大いに関わるものとみられ、更なる工夫が求められる課題であると考えられます。

目標を持って自ら学ぶ姿勢をいかにして刺激できるか、各学科、コースの取り組みが期待されます。

3 「授業に対する満足度（学びの成果）」も昨年同期に比べて上昇し、最近2年ほどの低下傾向から持ち直しの兆しが見えます。この流れを逃さずに授業満足度の向上に努力を積み重ねていきたいものです。Q12の総合満足の得点は、大学入学の満足度にも直結するものと見られます。この点も本調査報告書を参照しながら、各学科、コースにおいてFD活動を行い、検討をお願いしたいと考えます。

今期の結果は、全体的に改善傾向が目立つものとなっていますが、今後とも各学科において、個別の課題に向き合いながら、更なる改善の努力を重ねていっていただけますようお願い申し上げます。